



平成23年5月30日

## 卓話 『ベネズエラと日本、繁栄する二国間関係』

駐日ベネズエラ・ボリバル共和国 特命全権大使  
セイコウ・ルイス・イシカワ・コバヤシ 様

皆さんこんにちは。本日、皆さまにベネズエラについてお話しすることができ、非常にうれしく思います。ベネズエラは日本の反対側に位置しておりますけれども、私は常々、国と国の距離は、物理的な距離ではなく、その国についてどのくらい知っているかだと思っていますので、この機会に皆さまにベネズエラを知っていただき、日本とベネズエラの距離を近くにできたらと思います。

ベネズエラの国土面積は日本の約2.5倍、人口は2,900万人強です。若年人口が多く労働人口も多いため、これからの発展が大きく期待できます。今年にはベネズエラの独立200年です。1811年、植民地の中では一番初めに独立の署名がされました。政策面では今の政府になってから教育や医療などの面で非常に大きな進化を遂げており、様々な社会問題を解決すべく革新的な政策が取られています。この結果、国連の規定する人的発展のレベルにおいても非常に大きく成長しました。0.5から0.8というのが平均的な成長指数ですが、ベネズエラは0.8という高い成長率を示しています。また社会的公平性についても高い伸びを示し、今では南米で最も不平等が少ない国となっています。国民の健康についても単に健康を向上させるだけでなく、多くの学校や医療機関を作り、若者が医療に従事出来るようにしています。2008年の世界的な金融危機によってベネズエラの経済も多少停滞がありましたが順調に回復しておりまして、今年の第1・四半期ではすでに目標の成長率を達成しました。石油だけでなく貿易や通信、建設などの分野

でも非常に大きな伸びを示し、国民の年間所得も高くなっています。ベネズエラは300億ドルという非常に高い国債準備高を持っています。国債はマネージできる範囲のもので国民総生産の18%に抑えられて

います。国内では今、ダムや橋、鉄道、メトロなど、様々な建設がなされています。

ベネズエラは日本との関係では70年の歴史があり、相互補完的な良好な関係を保持しています。ベネズエラから日本への輸出は2006年まではアルミニウムが大部分でしたが、日本との新しい協定のおかげで石油および石油関連製品を輸出することができるようになり、また日本の企業がベネズエラの石油発掘事業に参加できるようになりました。また日本からのデジタルテレビシステムの導入が可能になり、正に先週からその試験放送が始まっています。

文化の面で、ベネズエラは青少年のためのオーケストラを37年に亘ってシステムとして築いて来ており、今、世界ではオーケストラの未来はベネズエラにあるといわれています。当大使館では毎年文化週間を企画し、様々なベネズエラの文化を紹介しています。私の妻のソプラノ歌手コロン・エリカのコンサートも大使館が後援しておりまして、是非皆さまにもご参加いただけたらと思っています。ご静聴ありがとうございました。

